

メッセージアウトライン ヨハネ8:48 ~59「アブラハムとイエス」

イエスに殺意を抱くユダヤ人たちに対してイエスは、あなた方の父は悪魔であると断言し、また、神から出た者は神のことばに聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神から出た者ではないからだと言われ、非常に厳しいことばを言われた。これに対するユダヤ人たちの反論が48節である。

「サマリヤ人」はユダヤ人と異邦人との混血の民族で純粋なユダヤ人たちからは非常に嫌われていた。ここでは正統からはずれた異端者という意味。これに対してイエスは、自分は悪霊につかれている者ではなく父なる神を敬う者だと父なる神との一体性を強調された。(49)イエスは自分の栄誉を求めるようにことはなさない。(50)イエスはわたしのことばを守るならばその人は死なないと言われる。(51)これはこの地上の生涯が終わっても新たに神の前に神と共に永遠に喜びをもって生きることができるという意味である。→ヨハネ3:16 しかしユダヤ人たちはそのような霊的なことは全く理解せず、イエスのことばをそのままの意味で受け取った。ユダヤ人たちはイエスが悪霊につかれていると理解した。(52)彼らは「あなたは、私たちの父アブラハムよりも偉大なのですか。……あなたは、自分自身をだれだと言うのですか」と語気鋭く迫った。(53)これに対してイエスは、「わたしに栄光を与える方は、わたしの父です」(54)と父なる神との密接な関係を主張された。「けれどもあなたがたはこの方を知ってはいません」(55)ユダヤ人たちは神を知り、神のことばを守っていると言うが、実は神を知っていないのだとイエスは言われる。「あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです」(56)これはいろいろな解釈があるが、アブラハムがやがて地上に救い主が現れる日を信仰によって望み見て、喜びつつ生きたということを目指すものと思われる。これに対してユダヤ人たちは「あなたはまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか」(57)と問うた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです」(58)ここでイエスが言っていることは明らかに、自分が永遠から永遠にいます神であるということを宣言していることにほかならない。「すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした」(59)ユダヤ人たちはイエスは人間であるのに自分を神としたとして非常に怒り、石打ちにしようとした。これは神を冒瀆するものに対する死刑の方法である。→レビ24:16「しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた」イエスの十字架の時はまだ来ていないのである。

イエスのことについて今日の箇所では教えられるように、イエスは神を父と呼ぶことのできるお方であり、永遠から永遠にいます真の神(子なる神)である。その真の神が人となってこの人間の世界に来てくださったのであり、それは人間を罪から救うため、罪の贖いのためであった。罪ある人間のために罪のない神の御子が身代わりとなって死なれるのである。私たちはこのひとり子イエス・キリストを私たちのために送ってくださった神に心から感謝し、イエスのことば、聖書のことばを守り行い、信仰を持ってこの地上の人生を全うし永遠の天の御国へ入るものとなりたい。
→ヘブル11:13~16